

あとがき

4年間を振り返って

初めての登庁、初めての議会、初めての来賓としての行事参加、初めての……。何も知らない。自分がどんな人間かも周りは誰も知らない。なんだか知らないが選挙で上がってきた坊主頭。他の議員も市職員も地元の先輩方も、どう扱ったらいいか手探り。そんな空気を感しながらも、カッコつける余裕もなく、ただひたすらこの市議会議員という者の仕事の本質がどこにあるのかを探し続けました。もともと優秀な人間じゃないことは自分が一番よくわかっていて。沢山の失敗をして、間違えて、周りの皆さんに教えていただきました。感謝しかありませんが、願わくばこの恩をもっときちんと返したい。情けないけど、包み隠さずに言えばそんな4年間でした。



この西目LABOという、春と秋の年2回の会報も、今回で4回目の発行となりました。元々同居する義父の「何か西目の皆さんだけに向けた活動もやってみたらどうだ」という助言をもとに考えた会報です。せっかくなので、西目限定の活動報告と自分の考え方について書いた内容のものを、自分の足で町を歩きながら各家々に配布することにしました。初めは道も分からず同じ所をぐるぐる回り、同じ家の同じポストに何度も辿り着いたりしていましたが、今では各町内の地図のおおよそが頭に入っていて、神社やお寺、空き家の位置など、町の様々な状況を知ることができました。さらに、文化や歴史に触れる機会もあり、非常に貴重で大切な活動の一つとなっています。冒頭でも書きましたが、10月には市議会議員選挙がある為、ひとまずこの活動はひと区切りということになります。この場を借りて、西目のお父さんには感謝いたします。いつもありがとうございます。



そして、いくら地図が頭に入ったからといっても、西目全戸に配布するのに2〜3週間かかる私を見かねて、配布を手伝って下さった皆様、本当にありがとうございます。本当に助かりました。

最後に、この会報を手に取り、お読みいただいた西目の皆様、直接ご連絡いただき、ご意見、ご質問、市への要望等を私に託して下さい。沢山のご助言を下された皆様、私の初めての議員活動4年間を支えて下さった全ての西目地域の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

「松本学は呼べば来る」企画

有志の勉強会や町内の会合の空き時間に、仲間内の集まりの余興に。テーマ（由利本荘市の現状、市政、議会、まちづくり、起業、鳥海山、遊び、子育て、教育）とおおよその時間（※注 予定より喋りすぎる傾向あり）、場所、ドレスコード（※注 T シャツ短パンで来る可能性あり）等お伝えください、全て依頼主のご要望、雰囲気づくりにお応えいたします。

当誌は自費発行であり、政務活動費は使用しておりません。自転車にて配達させていただいている関係で西目全域への配布は1ヶ月ほどかかる見込みです。「ご近所さんに配ってあげようか？」という方がいらっしゃいましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

西目 Labo

西
NISHIME
Laboratory

目

Vol.4



松本学
マツモトマナブ

－ 発行日 －
2025 年 9 月

－ 発行 －
マツモトマナブ
サポーターズ

－ お問合せ －
由利本荘市西目町
沼田字新道下 512-8

☎ 090-4848-2290
manabu@matsumotomanabu.com



討議資料

地元西目を守り、発展に導くために

あつという間の4年間。今思えば市議会議員という仕事の何一つも分らないまま、「自分がこの町をよくしてやる！」という気概と気合い、ただそれだけを胸に飛び込んだ世界でした。

「どうやら市議会議員という者たちが、この町のあれこれを決めているらしい」

そんな噂ひとつを頼りに、地図も方位磁石も持たず、最低限持つべき荷物も知らず、ザックにはただ理想だけを詰め込んで。家族や仲間、それまでの私の人生がそうだった様に、周りの皆に支えられ、背中を押され、その似つかわしくない出立ちで、気づけばその入り口の内側に立っていました。着慣れないスーツ。ネクタイの締め方はグーグル先生に聞いて。

4年間の活動を経て、私の中に生まれた大きな使命の一つ、それが地元西目を守り、発展に

導く力を自分自身につけること。

先人たちの計り知れない努力と挑戦の積み重ねが今の西目を形作っているということを忘れず、現在をより善い未来へと繋ぐ存在にならなければと、想いを新たにしてい

日に日に稲の大地は金色の濃度を増して、夕陽を映す空はいつの間にか秋の顔。この会報が配られる頃にはきつと、収穫の時期を迎えているのかもしれない。

今回でひとまずのひと区切りとなる第4回目発行の「西目ラボ」を最後までお読みいただければ幸いです。



松本 学（マツモト マナブ）プロフィール

1979 年 旧本荘市生まれ、新山小学校、北中学校、由利工業高校を卒業
1998 年 上京し音楽の専門学校へ進学、半年で中退し東京、秋田を拠点に音楽活動へ専念
2001 年 鳥海山と出会い衝撃を受け帰郷、地元愛に目覚める
2009 年 結婚を機に西目町に住み、その住みやすさにあつという間に西目の虜となる
2021 年 2006 年頃からまちづくり事業を始め、会社経営を経て市議会議員へ立候補



【市議会議員以外の活動】

鳥海山頂美術館、鳥海山木育推進センター、鳥海山遊育プロジェクト、(株)鳥海ドライブ世話人、山岳ガイド、子育て支援団体ニューノーマル、鳥海高原元気創造研究会、イベント司会業、若松町体育部員、由利本荘市山岳救助隊員、鳥海山家守舎

若松町10区B

由利本荘市議会議員 松本学

市議会議員とは何者か

市議会議員になりたての頃、よく先輩議員にこう言われました。

「市議会議員の最大の武器は一般質問だ」

議会という公開の場で、一般傍聴席が解放され、テレビ中継が入り、近年ではいつでもどこでも見返せるよう YouTube で動画も公開されている中で、議員が質問し、市長が答える。今回は「一般質問」、そして「会派代表質問」について解説していきます。

年のうち6月、9月、12月、3月の4回に渡り議会は開かれ、その都度、一般質問の機会があり、希望する議員は約1ヶ月前に質問を市当局に提出する。そして、議会までに市当局が回答を用意し、それを市長が答える。質問は主に市の予算に対するもの、本市の事案に対する対応、考え方など。なんでも聞けるわけではなく、質問提出の時点で議長からの許可が通ったものだけがいきる。これがいわゆる「一般質問」。その制限は、過去の議会と同じ質問、回答があったものはダメ。さらに国策、国道県道関係、学校教育は中学まで、と細かく制限され、由利本荘市内の問題といえど触れられない。それ故に局所的な質問に限られる。

Topics

西目トピックス

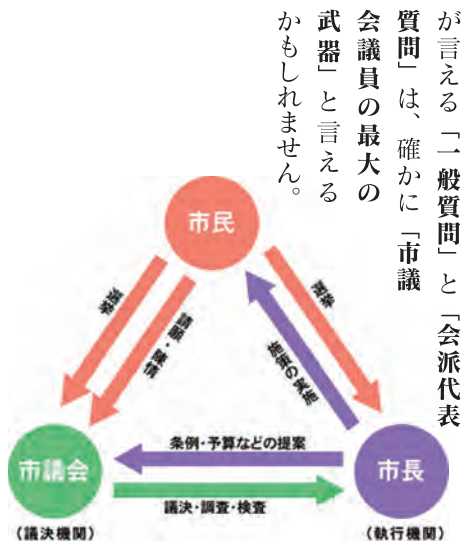
番外編

いつものこのコーナーでは、西目で行われた行事やイベント、文化・歴史などに触れ、西目という地区をより深く知ることを目的に書いているのですが、今回は「西目の未来」、特にこれから様々な形で顕著に現れることが予想される「本市の行財政改革（人口減少に伴いこれまでの行政サービスの維持が困難になる為、行う行政のスリム化）」がもたらす影響について、「西目町が進むべき道を見極めるには」と言う視点で書いてみたいと思います。

令和7年5月16日に開催された議会全員協議会で、当局より「本庁・総合支所の機能見直し」と銘打った機構改革（案）について説明があり、私は、「ついに来たか」という心境でその説明を聞きました。要約すると、今後も続く人口減少に伴い、市の職員の減少も見込まれる中、これまで均等ある発展のもと地域の要望に対応してきた総合支所の機能の一部を本庁へ移行し、総合支所はセンター（仮）と名称を変更。具体的には、本庁へ職員を移動、一部手続きのリモート対応、窓口対応での判断や対応を本庁へ取り継がれる、窓口時間短縮、など。人員不足対策、経費削減、職員の働き方改革の推進という、元々の行財政改革の目的や主旨から、なぜそれが必

年度末の3月議会では、次年度に対する予算が提示され、その考え方の大枠が示される。その考え方とは即ち、わが由利本荘市のあり様、スタイルであり、目指すべき方向性と言える。その考え方に對し、会派の代表者が質問するのが「会派代表者質問」であり、この市の大枠の考え方に對し、意見を述べることができる。この会派代表質問が「全ての施策の源流をよく見よ」という考えの私の性に合っている。今年は、市長選挙が4月にあつたことでずれ込んだ6月議会で、私の所属する会派「市民の窓口」を代表し、質問に立たせていただきました。

議員が議場で、公開の場で、市長と対峙し、現在の市政に物申す。そこでの主張が即座に市政に反映するとは限らないし、大抵の場合そうはならない。しかしそれでも、議事録に残るその議会での発言は、反映への検討がなされる。市議会はいくまで議決機関。執行機関である市長へ、市民の代表として市政運営に対する意見が言える「一般質問」と「会派代表質問」は、確かに「市議会議員の最大の武器」と言えるかもしれません。



公共施設と行政サービスのこれからを見つめ直す

要なのかという視点で見れば決して不自然な改革とは思わないが、それによる市民の利便性の著しい低下、職員の負担の大幅な増加などに繋がってしまったては本末転倒。本来に必要な機能の維持、最善の業務効率化を目指す必要がある。皆さんが現在の、またはこれからの支所に求める機能、役割はなんでしょうか？どのような在り方が今暮らす我々にとって、そして10年後20年後、大人になり暮らしていく今の子供たちにとってのベストなのか。

農業振興を含む様々な産業振興、人手不足、担い手不足解消、街灯を含む道路維持

6月議会 会派代表質問の主な項目

- 市長就任1期目を終え2期目を迎えるに当たって
- 行財政改革の必要性と見通しについて
- 令和7年度施政方針について
- 市外からの転入者と地域住民が共に生活しやすい社会の構築について
- 市民一人一人が住み慣れた地域で心豊かに安全安心に暮らせるまちづくりについて
- 令和7年度教育方針について

「市議会議員の役割」

市議会議員は結局何ができるのか？市長（執行機関）に對し市議会（議決機関）の關係は簡単にいうと、市長が提案する実現したい世界に對し、市民の代表としてその是非を判断する、という事になります。議員自身がどんな町にするか、どんな計画を立てどのように進めるか、といったことを決められる訳ではありません。例えば、私の目指すべき本市の在るべき姿の原点としては、「まちの未来を担う子どもたちの学びの充実」「鳥海山観光」「住民参加型まちづくり」に加え「誰も取り残さない発展ある行財政改革」などがあり、これらの考え方をともに、市の提案に對し様々な判断をしていく。時には違を唱え、こちらからも計画に提案を加える、ということもあるでしょう。その際、自分の考えに芯が通っていることと同時に、市民の皆さんの考えもしつかり反映出来なければなりません。

整備、通学路安全確保、除雪体制の維持、公共施設の管理、学校教育のあり方、西目高校の存続、道の駅の魅力増進、高速度道路西目インター開設、西目海水浴場の維持、松食い虫被害、JＲ西目駅の存続、町内会活動、浜館公園の整備、風車を建てるな、風車を建てる、ありとあらゆる防災対策。今ざっとあげたこれらは全て、西目に住む誰かが実際に口にした理想であり、町のため、家族のため、自分のため、誰かの未来のために想像する【こう在るべき】事柄。市の行政範囲外の事項もありますが、一見すると不可能に見えることも、例えば他の何もかも捨てて「西目町民全員の願い」ということであれば、どの願いも決して実現不可能ではないのです。

由利本荘市誕生20周年。1市7町合併は、ここ西目町に一体何をもたらしたのか？時を戻すことはできませんので、良い悪いの議論に意味はありません。過去の検証、現状把握、未来予測、他力の限界の見極めと、自力を発揮する為の準備。その心持ちを町民一人一人が持つこと、協力し合うこと、その為に認め合いコミュニケーションを怠らないこと。合併から20年を迎えた今こそ、我々は西目という地域を、その未来を、自分たちの手で創り上げていけるように、もう一度よく見直す必要があるのではないのでしょうか。